

# 山岳白書

平成28年中の北アルプス登山者と遭難事故のまとめ



写真：北飛山岳救助隊 堀畑 浩二

岐阜県北アルプス山岳遭難対策協議会

## はじめに



岐阜県北アルプス山岳遭難対策協議会  
会長 國島芳明

昨年より「山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する」ことを趣旨とする国民の祝日「山の日」が施行されました。初めての「山の日」となった8月11日には、長野県松本市において「第1回山の日記念全国大会」が開催され、皇太子御家族の行啓や様々な催しが行われ、多くの登山者で賑わいました。

平成28年中の北アルプス（飛騨山脈）岐阜県側の登山者数は5万4千人を超え、統計を取り始めた昭和41年以降、パーティー数および登山者数ともに過去最高となりました。また、北アルプス（飛騨山脈）での登山届の提出については「岐阜県北アルプス地区及び火山地区における山岳遭難の防止に関する条例」による義務化から2年が経ち、多くの登山者に浸透しているものと感じています。

昨年の北アルプス（飛騨山脈）岐阜県側における遭難の状況は、遭難事故51件、遭難者数66人、死者6人、負傷者29人、救出31人でした。前年より事故件数、遭難者数はともに増加しているものの、遭難事故51件のうち42件については登山届が提出されており、提出率は82.4%と昨年の73.8%よりも上がっています。

登山届の提出により、遭難事故発生時には、登山者の安全で迅速な救助活動につなげることができるとともに、隊員の安全確保にもつながります。しかし、未だ未提出の登山者もいることから、今後も登山届の重要性、必要性の周知徹底に努めなければならないと考えています。

この素晴らしい大自然の北アルプス（飛騨山脈）は、多くの登山者の憧れであり、訪れる人々全てを魅了しています。しかし、一方で悲惨な遭難事故が発生していることを、多くの皆様に知っていただき、安全で快適な登山をしていただけるよう、私達はこれからも遭難事故の防止に注力する所存です。

今後とも引き続き、岐阜県や岐阜県警察をはじめ関係機関の皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成29年3月

# 目 次

第1	登山者の状況	
1	登山者数と過去10年間の推移	1
2	シーズン別及び年齢別等登山者数の状況	2
第2	山岳遭難事故の状況	
1	遭難事故の状況と特徴的傾向	3
2	過去10年間の発生状況	4
3	月別発生状況	4
4	山岳別発生状況	5
5	原因別・遭難者の性別発生状況	5
6	遭難者の山岳会所属状況	6
7	登山届の提出状況	6
8	遭難パーティーの人数構成状況	6
9	遭難事故の届出状況	7
10	遭難者の年齢別状況	7
11	遭難者の職業別状況	8
第3	山岳警備活動の状況	
1	山岳警備活動の概況	8
2	安全登山指導活動の状況	8
3	山岳遭難救助活動の状況	9
4	ヘリコプターの活用状況	12
5	山岳遭難救助訓練の状況	12
6	広報活動等の状況	13
7	手記	14
第4	岐阜県山岳遭難防止条例	
1	登山届提出義務化	17
2	条例に関する問い合わせ先	17

別表1 平成28年・山岳遭難事発生一覧表

別表2 平成28年・山岳遭難事故発生分布図



# 第1 登山者の状況

## 1 登山者数と過去10年間の推移

平成28年中の登山届による岐阜県側からの北アルプスへの登山者は、

**26,082パーティー、54,211人**

を数え、過去最高だった前年よりもパーティー数では、312パーティー（1.2%増）、登山者数についても2,388人（4.6%増）となった。

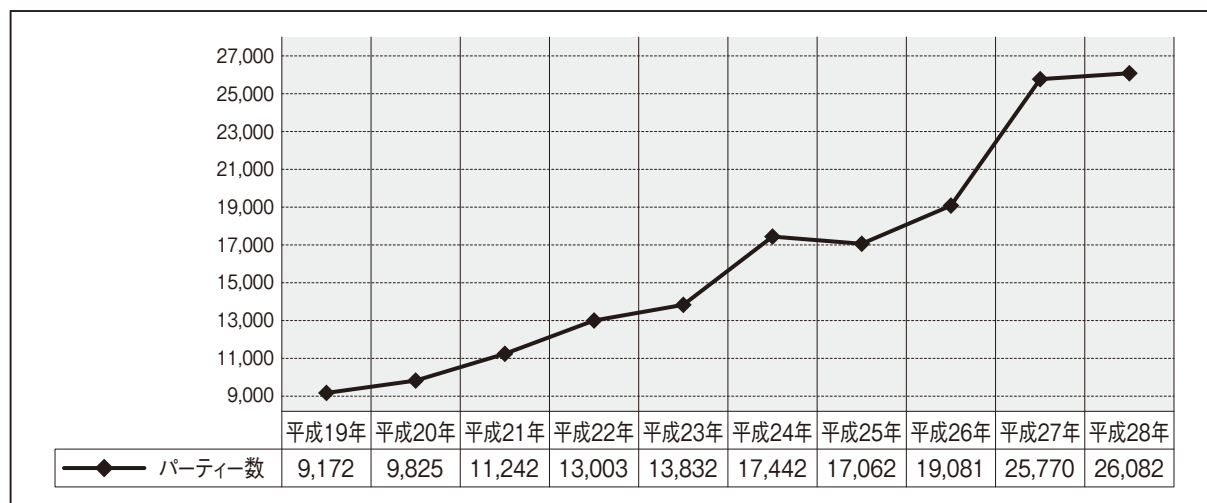
また、このうち単独登山者は、

**13,946人（前年比－145人）**

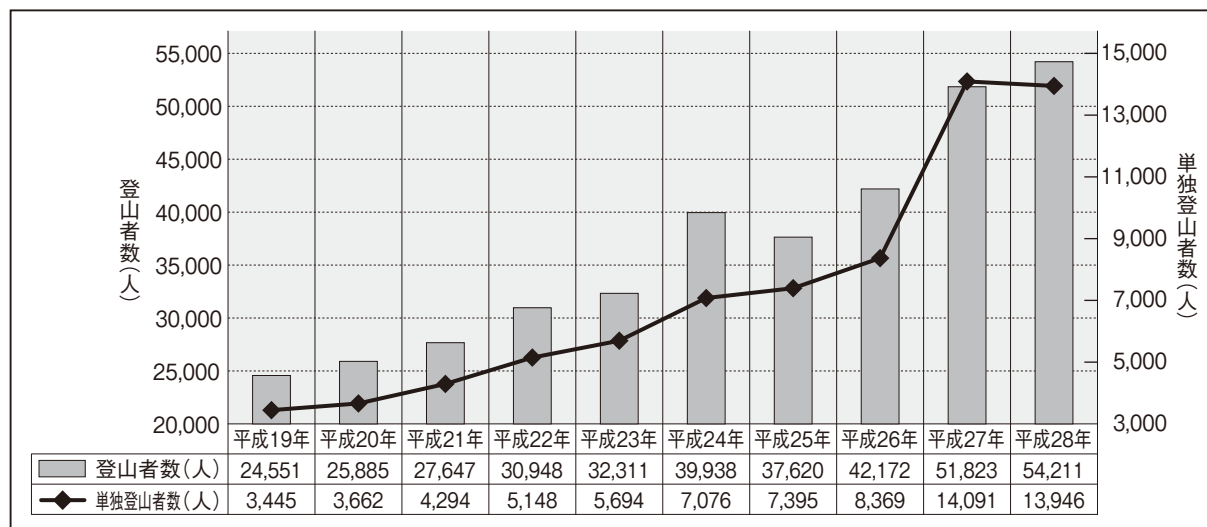
となり、単独登山者数は前年より微減となったが、登山者全体に占める割合は25.7%となっている。

条例施行後、年間運用が2年目を迎え、さらに提出率が向上していると思慮される。

【パーティー数の推移】



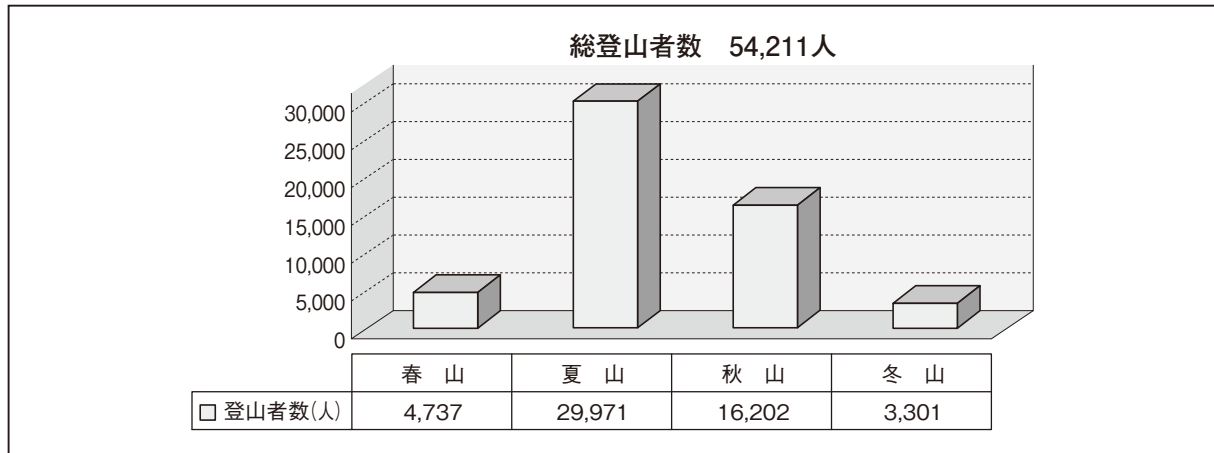
【登山者数の推移】



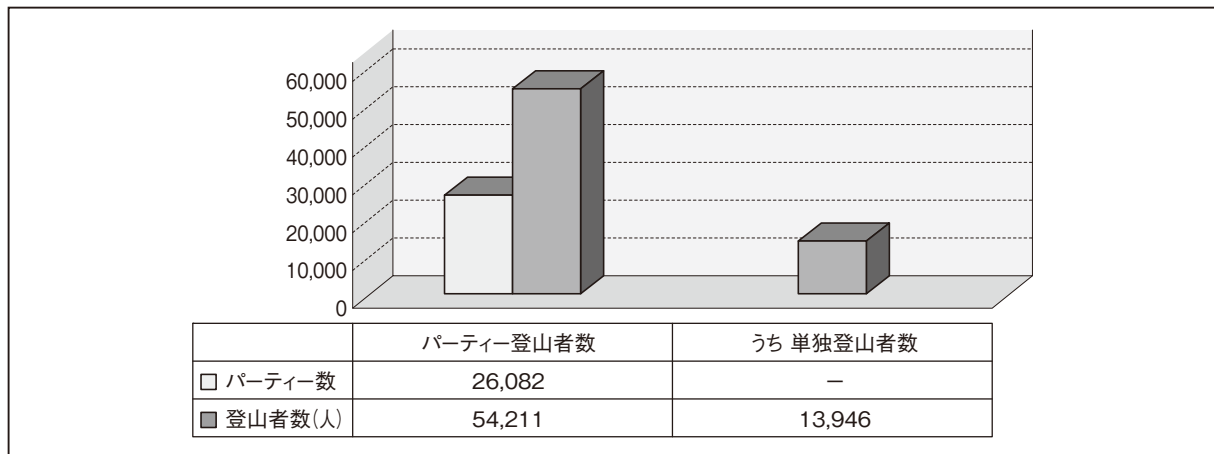
注・パーティー数、登山者数は提出された登山届による。

## 2 シーズン別及び年齢別等登山者数の状況

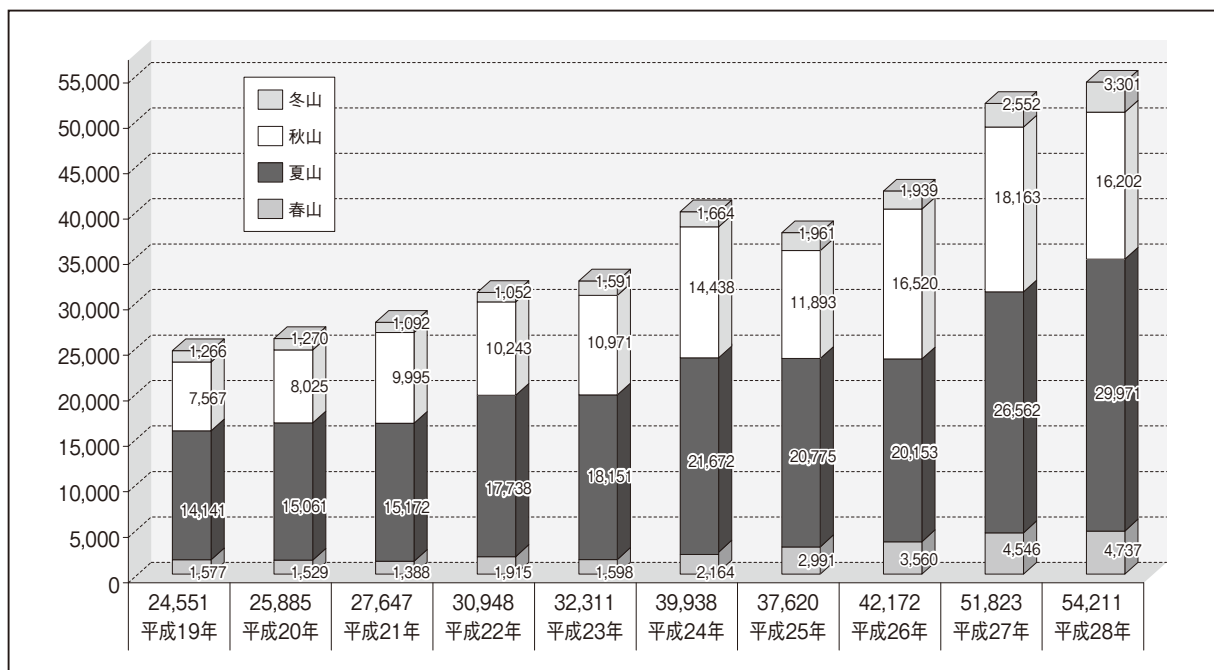
【シーズン別登山者数】



【パーティー・単独登山者別】



【過去10年間の推移】



## 【年齢別・シーズン別登山者の状況】

(人)

	20未満	20代	30代	40代	50代	60代	70以上	不詳
春山期間中	65	321	814	1,251	918	575	130	663
夏山期間中	2,318	1,986	3,660	5,173	5,093	5,121	1,663	4,957
秋山期間中	263	1,089	2,409	3,233	3,028	2,904	851	2,425
冬山期間中	30	299	694	897	601	312	61	407
合計	2,676	3,695	7,577	10,554	9,640	8,912	2,705	8,452
中高年別	13,948人(25.7%)			31,811(58.7%)				(15.6%)
総合計	54,211人							

## 第2 山岳遭難事故の状況

### 1 遭難事故の状況と特徴的傾向

平成28年中の遭難事故は、

**発生件数51件(前年比+9件)、遭難者数66人(前年比+16人)**

となった。

遭難者の内訳は、

**死者6人、負傷者29人、無事救出者31人**

となった。

遭難事故の特徴としては、

- 遭難者66人のうち46人(69.7%)が、40歳以上の中高年層であった。
- 70歳以上で12人(18.2%)も発生している。
- 遭難者における男性の割合が53人(80.3%)と高い。
- 単独登山者の遭難事故が14件(27.5%)発生しているが、大人数(ツアー登山やガイド登山含む)での遭難事故も6件(11.7%)発生した。
- 未組織登山者によるものが36件(70.5%)と高い比率を占めた。
- 51件のうち9件(17.6%)が登山届未提出であった。

区分		年別	平成28年	平成27年	増減数	増減率(%)
発生件数(件)			51	42	+9	+21.4
遭難者数(人)			66	50	+16	+32.0
内訳	死亡		6	7	-1	-14.3
	行方不明		0	0	0	0
	負傷		29	25	+4	+16.0
	無事救出		31	18	+13	+72.2

平成28年中に発生した山岳遭難事故の概要は、別表1「平成28年遭難事故発生一覧表」及び別表2「平成28年山岳遭難事故発生分布図」のとおりである。

## 2 過去10年間の発生状況

平成28年中は、発生件数51件遭難者数66人となり、依然として多い件数で推移している。

区 分	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	
発生件数(件)	48	40	40	44	51	43	52	51	42	51	
遭難者数(人)	62	49	45	56	61	53	64	70	50	66	
内 訳	死亡	8	5	12	3	5	9	9	15	7	6
	行方不明	0	1	1	2	0	0	1	1	0	0
	負傷	27	23	17	27	25	30	34	31	25	29
	無事救出	27	20	15	24	31	14	20	23	18	31

## 3 月別発生状況

ゴールデンウィーク中に遭難事故が多発し、死亡事故は無かったものの遭難者数では8月に次いで多くなっている。



区 分		発生件数 (件)	遭 難 者 数 (人)				計
季節別	月 別		死 亡	行方不明	負 傷	無事救出	
冬 山	1月	2	1			2	3
	2月	1			1		1
春 山	3月	4	1		3		4
	4月	4			3	11	14
	5月	2			1	1	2
夏 山	6月						
	7月	9	1		5	3	9
	8月	18	2		7	11	20
秋 山	9月	7	1		4	3	8
	10月	2			2		2
	11月						
冬 山	12月	2			3		3
計		51	6		29	31	66

#### 4 山岳別発生状況

51件のうち35件(68.6%)が、槍・穂高連峰で発生し、遭難事故の半数以上を占めている。中でも、奥穂高岳山域での発生が多く、12件発生し15人が遭難した。

山域別		区分	発生件数 (件)	遭難者数(人)				
				死亡	行方不明	負傷	無事救出	計
四		ツ岳	1			1		1
槍 穂 高 連 峰	西	穂高岳	9	2		5	3	10
	ジャンダルム		2				11	11
	奥	穂高岳	12	2		7	6	15
	北	穂高岳	3	1		2		3
	南	岳	3			2	1	3
	大	喰岳	1			2		2
	槍	ヶ岳	5			4	2	6
奥		丸山	1			1		1
双六岳(双六小屋)			4				4	4
弓		折岳	3	1			2	3
抜		戸岳	3			2	1	3
笠		ヶ岳	3			2	1	3
そ		の他	1			1		1
計			51	6		29	31	66

#### 5 原因別・遭難者の性別発生状況

遭難者に占める男性の割合が53人(80.3%)と、圧倒的に高い。

原因別		区分	発生件数 (件)	遭難者数(人)					遭難者の性別(人)	
				死亡	行方不明	負傷	無事救出	計	男性	女性
転 落 ・ 滑 落	つまづき、スリップ		7	1		7		8	4	4
	バランス崩し		3			3		3	2	1
	浮き石を踏む・掴む		5	2		3		5	5	
	雪庇踏み抜き		1			1		1	1	
	アイゼンを引っ掛ける		2			2		2	2	
	原因不明		2	1		2		3	3	
転 倒	つまづき、スリップ		8			8		8	7	1
	バランス崩し		2			2		2	1	1
	浮き石を踏む		1			1		1	1	
発 病	尿道結石		1				1	1	1	
	高山病		2				2	2	2	
	熱・日射病		2				2	2	1	1
	その他		4	1			3	4	3	1
悪		天候	1				9	9	6	3
疲		労	5				6	6	6	
道		迷い	4	1			6	7	7	
そ		の他	1				2	2	1	1
計			51	6		29	31	66	53	13



## 6 遭難者の山岳会所属状況

遭難事故51件のうち、山岳会等に所属していない未組織登山者による遭難事故は36件(70.6%)と高い。また、ツアー、ガイド登山中の遭難事故も発生している。

所属別	区分	発生件数 (件)	遭難者数(人)				比率(%)	
			死亡	行方不明	負傷	無事救出		計
社会人山岳会		13	2		7	14	23	25.4
ツアー及びガイド登山		2	1		2	1	4	3.9
未組織		36	3		20	16	39	70.6
合計		51	6		29	31	66	100

## 7 登山届の提出状況

登山届提出義務化から2年を経過し、遭難事故の82.4%で登山届が提出されていたが、未提出が9件あった。

平成28年12月に過料規定も施行されたことから、今後も周知徹底に努め、継続的な提出呼びかけを行う必要がある。



提出別	区分	発生件数 (件)	遭難者数(人)				計
			死亡	行方不明	負傷	無事救出	
提出		42	4		22	30	56
未提出		9	2		7	1	10
合計		51	6		29	31	66

## 8 遭難パーティーの人数構成状況

依然として単独、2人パーティーの遭難事故は多いが、大人数(ツアー登山やガイド登山含む)パーティーでの救助要請が6件発生した。

構成別	区分	発生件数 (件)	遭難者数(人)				計
			死亡	行方不明	負傷	無事救出	
単独		14	3		10	2	15
2人		14	1		7	7	15
3人		13	1		6	10	17
4人		0					0
5人		1			1		1
6人～10人		3			3	9	12
11人以上		6	1		2	3	6
合計		51	6		29	31	66

## 9 遭難事故の届出状況

遭難者本人または同行者から携帯電話による救助要請がある他、別の登山者の目撃情報、家族や山岳会からの届出等がある。



届出方法	通 報 者							計(件)
	本人	同行者	一般登山者等	山小屋	家族・職場	警備隊員	所属山岳会	
携 帯 電 話	6	15	9	8				38
加 入 電 話				2	1			3
口 頭	3	4	1					8
アマチュア無線								0
その他(目撃等)			1			1		2

注・救助要請の届出方法で計上

## 10 遭難者の年齢別状況

遭難者66人のうち、46人(69.7%)が40歳以上の中高年層となっており、70歳以上の遭難者が12人と多発した。

最年少は15歳(学生)で負傷、最高齢は81歳(無職)の死亡であった。

北アルプス以外の高山警察署管内で発生した遭難事故では、最年少0歳、最高齢94歳がある。

区 分 年齢別	遭 難 者 数 (人)				計(人)	
	死 亡	行方不明	負 傷	無事救出		
20 歳 未 満			2	2	4	20 (30.3%)
20 代			1	8	9	
30 代			4	3	7	
40 代	2		7	4	13	46 (69.7%)
50 代			5	7	12	
60 代	2		6	1	9	
70 歳 以 上	2		4	6	12	
計	6		29	31	66(100%)	



## 11 遭難者の職業別状況

会社員に次いで、無職・主婦層の事故が多発している。

職業別	区分	遭難者数(人)				計
		死亡	行方不明	負傷	無事救出	
会社役員・会社員		2		13	16	31
国家公務員・公務員				1		1
医者・看護師					1	1
大学教授・教員・保育士					1	1
自営業・家業手伝い				2		2
専門学校生・学生				3	6	9
パート・アルバイト				1		1
無職・主婦		4		6	7	17
その他				3		3
合計		6		29	31	66

## 第3 山岳警備活動の状況

### 1 山岳警備活動の概況

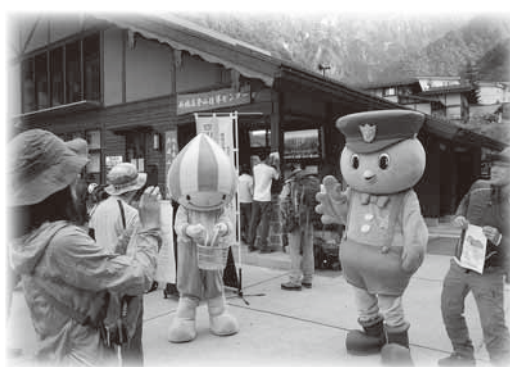
北飛山岳救助隊(岐阜県北アルプス山岳遭難対策協議会附置機関、以下「救助隊」という。)と、岐阜県警察山岳警備隊飛騨方面隊(以下「警備隊」という。)は、共に年間を通して新穂高登山指導センターの常駐、山岳パトロール、穂高常駐活動等を実施し、山岳遭難事故の防止を図るとともに、大型連休や遭難事故の発生が予想される時期には、岐阜県警察航空隊(以下「航空隊」という。)の応援・協力を得て、遭難防止に資する山岳情報の収集と遭難者の救助活動に当たっている。

### 2 安全登山指導活動の状況

#### (1) 新穂高登山指導センターの開設

北アルプス岐阜県側登山口に当たる新穂高温泉において、各登山シーズン中「登山指導センター」で常駐し、登(下)山届の受理、山岳情報の収集・提供等、登山者に対する安全指導を実施した。

また、穂高常駐、山岳パトロール、遭難事故出動時における無線中継や各種情報の収集・伝達等に当たる前進基地としての役割を果たしている。



#### (2) 山岳パトロール活動

登山者の最も多い夏山シーズン中には、北アルプス岐阜県側を中心に山岳パトロールを

実施し、登山者への安全指導、登山ルートの整備、遭難者の救助活動等に当たっている。

また、夏山警備期間中のみならず、ゴールデンウィークや紅葉期、年末年始等に随時山岳パトロールを実施し、遭難事故防止を図った。

### (3) 穂高常駐活動

警備隊は、穂高岳山荘を拠点として、特に険しいルート・地形を持ち、遭難事故の多発する穂高連峰の常駐パトロールを実施し、登山者の安全指導と遭難者の救助活動等に当たるほか、救助隊は穂高連峰のパトロールを実施している。

活動別	区分	延活動日数 (日)	延活動人員(人)		
			救助隊	警備隊	計
登山指導センター常駐		81	149	81	230
山岳パトロール		30	129	43	172
穂高常駐		58		181	181
計		169	278	305	583

## 3 山岳遭難救助活動の状況

遭難事故1件当たりの平均出動日数は1.17日、平均出動人員は13.3人(救助隊1.6人、警備隊11.7人)となっている。

年別	区分	延出動日数 (日)	延活動人員(人)		
			救助隊	警備隊	計
平成24年		65	123	574	697
平成25年		64	97	582	679
平成26年		69	89	734	823
平成27年		54	51	475	526
平成28年		60	82	595	677

### 【主な活動事例】

- 1月12日、「登山に行った息子が帰宅しない」と母親からの届出を受理。  
翌日から航空隊と警備隊で捜索を開始したところ、西穂高岳西尾根の標高2,500メートル付近で、雪に埋もれて倒れている遭難者(男性・40歳)を発見し、警備隊員が現場へ降下して確認をしたところ、凍り付いて死亡しているのを確認。  
現場付近は、発見前日まで吹雪であったことから、道に迷い凍死したとも思慮される。
- 3月15日、3人パーティーで西穂高岳西尾根から西穂高岳へ向けて登山中、標高2,700メートル付近で、先頭を歩いていた1人(男性・67歳)が、稜線を右側斜面から回り込んで登ろうとしたところ、足元の雪が崩れ、雪崩と共に谷へ巻き込まれながら滑落し行方不明となり、同行者が110番通報。

通報を受けて航空隊と警備隊で捜索を開始したものの、現場付近は悪天候と強風に阻まれ、降り続いた雪で雪崩の危険性もあるため、翌早朝から再度捜索を開始したところ、小鍋谷の標高2,100メートル付近で雪に埋まっている行方不明者を発見、警備隊員が現場へ降下し遺体を収容した。

- 4月30日、ジャンダルムでビバーク中の4人パーティーのところへ、飛騨尾根から登ってきた登山者から「3人パーティーで登山中に1人が滑落した」と救助を求められたが、同行者の2人(男性・38歳、28歳)は聴覚障害のため、ビバーク中だった4人パーティーのリーダーが代わりに110番通報。

遭難パーティーの2人は冬山装備を持ち合わせておらず、寒さで震えが止まらない状態であり、午後9時を過ぎていたことから、自分達のテントに招き入れ共にビバーク。

通報を受け、翌日から航空隊と警備隊で救助を試みるも、標高2,400メートルから上空にガスがかかり捜索ができず、さらに翌日、ジャンダルム周辺の気流が悪いためピンポイントでの救助活動が困難であった。

ビバーク中だった4人パーティーは、A隊(男性・51歳、26歳、女性・33歳、27歳)とB隊(男性・31歳、54歳、53歳、53歳、女性・56歳)に分かれて入山し別に行動していたが、折からの悪天候でそれぞれジャンダルムとロバの耳付近で雪洞を掘るなどしてビバークしてたものの、悪天候で行動不能となり食料等も尽いたため、リーダーが当初の救助を求めてきた2人と併せて救助要請。

ようやく晴れ間の見えた3日後、航空隊と警備隊が一丸となって救助に向かったが、遭難者のビバーク場所が気流と地形が悪く、ピンポイントでの救助が出来なかったため、隊員4人は近くへ降下し、フィックスロープなどを張るなどしながら、全員をピックアップ可能地点まで移動させ、2パーティー11人を無事救助した。

その後、最初に滑落した遭難者は長野県側で発見し、収容された。

- 7月29日、奥穂高岳を登山中の3人パーティーが、ハシゴ場上部から1人(男性・81歳)が転落したのを目撃し、穂高岳山荘へ通報。

夏山警備で常駐中の山岳警備隊員と救助隊山小屋班(穂高岳山荘従業員)がすぐさま救助を開始し、人海戦術により山荘の診療所に搬送したものの、診療所医師により死亡を確認。

遭難者は、奥穂高岳直下付近から約200メートル転落、下山中に浮き石に足をとられ転落したと思慮される。

- 8月9日、10人パーティーで入山し、それぞれ分かれて登山していたが、滝谷でクライミングをしていた3人のうち1人(男性・50歳)が、掴んだ岩が剥がれ約10メートル滑落し全身を強打。

現場付近は携帯電話が通じないことから、別行動をしていた仲間にアマチュア無線で連絡をとり、同行者が電波の通じる所まで登り返し110番通報。

しかし、発生現場が急峻な岩場のため、航空隊が直接ピックアップできないことから、同山岳会で遭難者をピックアップ可能ポイントまで搬送するよう依頼、第4尾根取り付き付近にてへりを待つこととなったが、天候が回復せず救助が出来ない為、他の仲間も現場へ降り、遭難

者と同所でビバーク。

翌日は天候が回復し、航空隊と警備隊で現場へ向かい遭難者を救助、病院へ搬送した。



- 8月26日、夫婦2人パーティーで黒部五郎岳方面へ向けて登山中、夫(76歳)の体調が悪くなり、1日目にわさび平小屋で宿泊。

翌日、鏡平山荘へ向けて登山を開始したが、夫が「ゼイゼイ」と荒い呼吸になり夜になっても小屋に着くことが出来ず、妻が鏡平山荘へ行き従業員に付き添われながら鏡平山荘に到着し宿泊。

翌日も体調がすぐれないことから下山を開始したが、小池新道付近で再び体調不良となり、ふらついて倒れた後に意識不明となり、妻が山小屋を通じて救助要請。

救助要請の第一報が午後6時を過ぎており、雨が降りヘリでの救助が見込めないことから人海戦術での救助活動となり、警備隊と救助隊及び救助隊山小屋班(わさび平小屋従業員)の総勢17人で必死の救助活動を展開、時折強い雨が降りしきる中、午後11時過ぎに登山口の新穂高で救急車に引き継いだ。死亡を確認した。

- 9月24日、3人パーティーで西穂高岳から下山中、1人(男性・55歳)が稜線上で約25メートル滑落し負傷。

意識はあるものの、頭部が出血、背中や足を強打し自力歩行が不可能となったことから、同行者から救助要請。

パトロール中だった救助隊と救助隊山小屋班(西穂山荘従業員)が現場へ駆けつけ、遭難者を稜線まで引き上げ搬送、当初は西穂山荘へ収容し翌早朝にヘリで搬送予定であったが、嘔吐を繰り返し背中痛みを訴えたため、その日のうちに下山搬送することを決定、警備隊、救助隊を追加投入し、夜間であることと遭難者が大柄であったため搬送は厳しいものとなったが、人海戦術と新穂高ロープウェイの緊急運行の協力により、午後11時半に救急車へ引き継ぎ、病院へ搬送した。

遭難者は、頭部の裂傷、肋骨骨折の他、肺に水が溜まっていたため緊急入院となった。

- 12月31日、6人パーティーで南岳西尾根経由で槍ヶ岳へ向けて登山中、大喰岳付近で1人(女性・31歳)がアイスバーンで足を滑らせ滑落し、直下にいた1人が助けようとして更に滑落し、残りの4人で助けに向かっていたところ、途中でもう1人(男性・72歳)が足を滑らせ腰を強打して行動不能となったことから、最初に滑落した1人と共に救助要請。

翌1月1日、航空隊と警備隊が早朝から救助に向かうも、現場付近の天候と気流が安定しなかったため厳しい現場となったが、気流が安定した一瞬の間隙をついて、現場付近でビバークしていた2人を無事救助し、病院へ引き継いだ。



## 4 ヘリコプターの活用状況

近年の山岳遭難救助活動には、遭難者の一刻も早い救助活動はもちろん、現場の隊員達にとっても、安全で迅速な救助活動に必要不可欠である。

平成28年中の遭難事故における出動回数は、51件中40件(78.4%)と、過半数の遭難事故に出動し、多くの命を救っている。



年 別 \ 区 分	発生件数(件)	ヘリコプター出動件数(件)	出動率(%)
平成24年	43	34	79.1
平成25年	52	40	76.9
平成26年	51	40	78.4
平成27年	42	28	66.7
平成28年	51	40	78.4

※1件で1出動として計上

## 5 山岳遭難救助訓練の状況

遭難事故の発生場所や救助活動は、時と場所を選ばない。悪天候や夜間に及ぶこともあり、そのような状況では人力での救助活動が必然となってくる。

そのため、厳しい条件の現場において、安全で迅速な救助活動を実施するために、救助隊や警備隊は合同訓練を実施する他、縦走訓練、ヘリコプターとの合同訓練、飛騨警察署神岡警部交番庁舎壁面の人工登はん壁を活用した訓練等を実施し、個々の救助技術の向上や登はん技術の向上を図る他、隊員個々にトレーニングを積んでいる。

また、昨年は国立登山研修所(富山県)で開催された、山岳遭難救助研修会に隊員1人を派遣した。

	種別	実施月	日数	訓練場所	訓練内容	
救助隊	冬山	2月	3	西穂高岳・中尾公民館	冬山雪上訓練	
	夏山	7月	1	飛騨沢・鍋平ヘリポート	航空隊合同訓練	
	秋山	10月	5	富山県・国立登山研究所	山岳遭難救助研修会(派遣)	
警備隊	冬山	1月	3	福地山・輝山他	雪上定期訓練	
		2月	4	西穂高岳・流葉山他	航空隊合同訓練・雪上訓練	
	春山	3月	3	金山岩・アカンダナ山他	雪上定期訓練	
		4月	5	西穂高岳・焼岳・飛騨沢他	航空隊合同訓練・雪上定期訓練	
		5月	4	野谷荘司山・御前山他	雪上定期訓練	
	夏山	6月	7	乗鞍岳・御嶽山他	定期訓練・縦走訓練	
		7月	15	奥穂高岳・槍ヶ岳他	定期訓練・縦走訓練	
	隊	秋山	9月	2	鍋平ヘリポート他	航空隊合同訓練
			10月	4	笠ヶ岳・西穂高岳他	定期訓練・縦走訓練
		11月	3	西穂高岳・滝谷出合	定期訓練	
冬山		12月	5	神岡警部交番・猪臥山他	登はん訓練・雪上訓練	

## 6 広報活動等の状況

広報活動	概 要
山岳情報の提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>登山指導センター常駐、山岳パトロール、穂高常駐活動等を通して気象情報、山岳情報を提供</li> <li>航空隊が撮影した航空写真及び雪崩マップを山岳情報として登山指導センターで活用</li> <li>デジタルサイネージ(電子掲示板)を使用して、年間を通しての広報活動</li> <li>インターネットでの山岳情報の提供及び、オンラインから提出される登山届を受理</li> </ul>
「山岳白書」の発行	<ul style="list-style-type: none"> <li>各県山岳連盟及び関係機関、団体に送付</li> </ul>
山岳情報等 広報紙の発行、配布	<ul style="list-style-type: none"> <li>岐阜県山岳遭難防止条例に伴う、各登山シーズン毎のキャンペーン活動</li> <li>県が作成した、北アルプス登山マップを、登山指導センター、各関係先で配布</li> <li>登山届提出を促す一声運動の実施</li> </ul>
啓蒙ポスター、 チラシの掲示配布	<ul style="list-style-type: none"> <li>啓蒙チラシ等を指導センター等に掲示、配布</li> <li>英語、韓国語、中国語の登山届用紙を、登山指導センター、新穂高ロープウェイ駅舎に常備</li> </ul>
小中学校登山への 指導員の派遣	<ul style="list-style-type: none"> <li>高山市北稜中学校の清掃登山に指導員を派遣</li> <li>同栃尾小学校の親子登山に指導員を派遣</li> <li>同本郷小学校の親子登山に指導員を派遣</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>山岳雑誌「山と溪谷」、「岳人」への資料提供</li> <li>テレビ、ラジオ、新聞等広報媒体への資料提供</li> </ul>





## 7 手記



### 山岳救助と家族(仮題)

岐阜県警察山岳警備隊飛騨方面隊隊員

高山警察署 丸亀 淳吾

平成28年4月30日午後9時半過ぎ、自宅で過ごしていた私の元に山岳遭難発生との連絡が入った。

「いまジャンダルムで1人落ちたで、明日の朝ヘリポートへ来てくれ。」

谷口方面隊長からの電話で明朝の出動指示を受ける。飛騨尾根を登っていた3名パーティの内1名がジャンダルム頂上付近から滑落してしまい行方がわからず、残った2名も寒さで行動不能となっているらしい。通報してきたのは現場に居合わせた別のパーティ4人組であったが、そのパーティも行動遅れによりジャンダルムにてビバーク中という状況であった。

ジャンダルムといえば言わずと知れた難所であり、そこでは一年を通して滑落・転落などの遭難事故が発生している。現場がその場所であると聞き、一気に緊張感を覚えた。雪の無い時期ならば、私自身もパトロールや救助活動で度々行くことのある場所ではあるが、積雪等で条件が悪くなっているこの季節に登ったことはなく、無事に救助してこれるのだろうかと不安に思った。

頭の中で現場の状況や明日のヘリ救助のイメージをしながら、黙々と装備の準備を始める。電話の後、明らかに口数が少なくなっている私を見て妻は心配しているようだ。決して不機嫌になっているわけではなく、ただ、出動を前にしてナーバスになっているだけなのだが、今は気を遣う余裕もないので、明日無事に帰ったあとで「昨日はごめん」と心配かけたことを謝るほかない。

翌5月1日、ヘリポートに集合するが天候は悪い。

山にはどんよりと厚いガスがかかっていて標高約2,400メートルから上は見えない。穂高岳山荘に常駐している隊員と無線交信するが、「山荘付近ガス、視界10メートル、風の強さ15～20メートル。」と入り、現場の周辺は相当荒れていることがわかる。

岐阜県警航空隊ヘリ「らいちょうⅡ号」に乗り込み、ガスの切れ間を粘り強くフライトしてもらったが、山頂を視認することも滑落した登山者を見つけ出すこともできず、この日の捜索は終了した。

好天が見込まれる翌日に再度ヘリでの捜索が行われることとなり、私は交番に戻って、



もともと予定されていた当直勤務に就いた。

5月2日午前5時30分、再びヘリポートに集合。

空は晴れており、麓からも山頂を望むことができる。打ち合わせを行い、先に2晩ビバークしている6名を救助するという方針を確認して、先輩の大森隊員とともにヘリに搭乗した。



この打ち合わせの際、谷口方面隊長から「お前は危ないところ行かんでええぞ。俺が行くで。もう産まれるやろ。」と言葉を掛けていただく。

妻が臨月を迎えており、第二子の出産予定日が迫っていたため、その気遣いに内心感動したが、当然甘えるわけにはいかないので「いえ、大丈夫です。」と答え一層気を引き締めた。

上空からヘリで現場に近づくと、ジャンダルムの頂上から、北側へ岩壁を降りた地点に6名の遭難者を発見することができた。

しかし、強風で風向きが不安定なため、遭難者の直近にホイスト降下しヘリで直接吊上げるといった救助方法をとることはできなかった。

機内での協議の結果、ジャンダルム山頂の南側の鞍部に大森隊員と私が降下し、その地点に遭難者達を誘導して、そこで吊上げ救助をするという方法をとることになった。

思いもよらない方法となったことから「安全に遭難者達を誘導できるだろうか。」「まず自分が無事にジャンダルムを登って、降りられるのだろうか。」など色々な心配が頭をよぎったが、冷静になって慎重に行動することを意識的に考え自分を落ち着かせた。

ホイスト降下し、遭難者のもとへ向かうため岩壁を登り降りする際も「少しでも足を滑らせれば落ちる。」と頭の中で繰り返し確認しながら、所々岩が露出したり、雪や氷が付いたりしている岩壁を一步一步確実に進んだ。

こうして遭難者達の場所にたどり着いたところ、遭難者達がさらに北方の山頂「ロバの耳」を指さし「あそこにも5人います。救助をお願いします。」と申し立てたことから、救助が必要な遭難者は全員で11名であったことが判明したが、遭難者らは全員が自力での歩行が可能とわかり、さらに谷口方面隊長と航空隊・川地小隊長にすぐに第二陣として現場に来てもらえたことで、スムーズに救助を進めることができた。

私はロバの耳の5人をジャンダルムに誘導して、11人を1人ずつジャンダルム山頂に引き上げるための補助に当たったが、全員が登りきったことを確認し、最後に自分が山頂に登り返したとき、上から11人をロープで引き上げていた谷口方面隊長に「おつかれさん」と、声を掛けられ手を差し伸べていただいたとき、救助の核心部分はクリアできたと分って少し安心したことを覚えている。

遭難者を一人ずつ吊上げ地点まで誘導し、ホイストで次々とヘリの機内に引き込んでい



く。

ヘリは、現場と鍋平ヘリポートをもう何往復したのだろうか。安定したホバリングに心強さを感じた。

最後の11人目を見送った後、自分もヘリに乗り込みドアが閉まってヘリポートへ進みだした瞬間、現場に残っていた全員を無事に救助できたという達成感と、危険な現場から無事に離脱できたという安心感から、全身の力が抜けた感覚になった。

その後、最初に滑落した遭難者は、残念なことに長野県側の下方の沢にて亡くなった状態で見つかり、後日収容されすべての救助活動を終えた。

なお私事ではあるが、この出動の数日後、無事に元気で大きな第二子が誕生した。

子供を持ってから強く意識するようになったことは、どの登山者にも帰りを待つ家族がいるということである。

山で遭難した登山者の家族は、何としてでも無事に帰ってきて欲しいという思いでいるのだから、現場で救助を行う私としては家族のその思いの分まで全力を尽くさなければならないと考えている。

そしてそれは私自身にも言えることで、私の家族も私の無事な帰りを(おそらく)待っていると思うので、山での活動は事故の無いよう安全に行わなければならない。



## 第4 岐阜県山岳遭難防止条例

### 1 登山届提出義務化

岐阜県では「岐阜県北アルプス地区及び活火山地区における山岳遭難の防止に関する条例（岐阜県山岳遭難防止条例）」を施行し、北アルプス登山に登山届の提出を義務付けています。

なお、登山届を提出しなかった者、虚偽の届出をした者は5万円以下の過料が科せられます。



○ 登山届の提出方法は下記を参照して下さい。

登山届提出方法	提出先
登山届ポストへの投函 ↓ <b>【登山届を提出したら】</b> 備え付けの「届出済証」 を持参して登りましょう	(対象エリア内設置場所) <ul style="list-style-type: none"> <li>・新穂高登山指導センター窓口</li> <li>・新穂高ロープウェイ西穂高口駅構内</li> <li>・西穂高口登山届出所</li> <li>・左俣林道ゲート付近</li> <li>・右俣林道起点</li> <li>・笠ヶ岳登山口(クリヤ谷ルート)</li> <li>・焼岳登山口駐車場</li> </ul> 
オンラインによる届出 ↓ <b>【登山届を提出したら】</b> システムからの返信画面 を印刷・保存し持参 して登りましょう	岐阜県北アルプス 山岳遭難対策協議会 ホームページ  コンパス  ※「コンパス」は(公社)日本山岳ガイド協会が運営する登山届受理システムです
関係機関への郵送、 FAX、メール等 ↓ <b>【登山届を提出したら】</b> 登山届の写しを持参し て登りましょう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・岐阜県防災課</li> <li>・岐阜県警察本部地域部地域課</li> <li>・高山警察署及び飛騨警察署並びに、両警察署管内の交番、駐在所</li> <li>・岐阜県北アルプス山岳遭難対策協議会</li> </ul> オンライン、様式のダウンロード、メールに添付する方法が選択できます。

### 2 条例に関する問い合わせ先

- ・岐阜県防災課 TEL 058-272-1131
- ・岐阜県北アルプス地区及び活火山地区における山岳遭難の防止に関する条例について  
 岐阜県庁ホームページ  
<http://www.pref.gifu.lg.jp/kurashi/bosai/sangaku/11115/jourei.html>

# 平成28年 山岳遭難事故発生一覧表

別表1

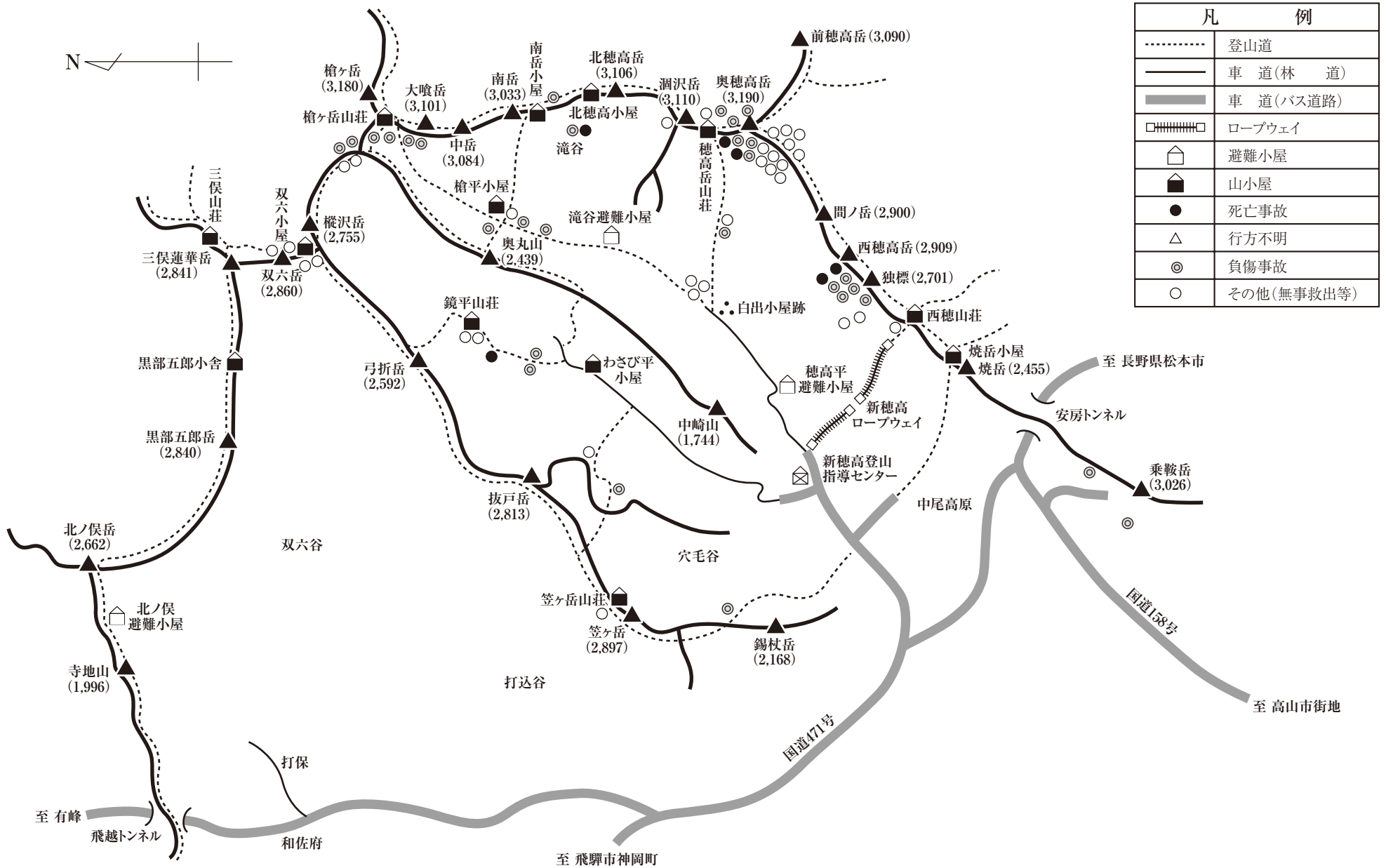
	発生日	発生場所	所属山岳会名	構成人員	届出	年齢	性別	職業	住所	死傷別				原因	遭難状況	出動状況				
										死亡	不明	負傷	その他			日数	警備隊	救助隊	その他	ヘリ
1	1月4日	西穂高岳	無所属	3	有	20 20	男 男	大学生 大学生	神奈川県 神奈川県				2	道迷い	3人パーティーで入山、独標へ登る途中1人のアイゼンが壊れたため引き返し、他2人は登山を継続。2人が小屋に着き、1人が夕方になって戻らないことから救助要請。	2	19			警察
2	1月11日	〃	社会人山岳会	単	無	40	男	会社員	富山県	1				道迷い	家族から「登山に行って帰宅しない」と届出があり、翌日から捜索を開始したところ、西穂高岳西尾根標高2500メートル付近で倒れている遭難者を発見	2	19			警察
3	2月18日	〃	無所属	2	無	41	男	公務員	岐阜県			1		滑落	2人パーティーで西穂高岳から下山中、ピラミッドピークの山頂側コル付近で約300メートル滑落し、本人が携帯電話にて救助要請。右腕とあばらを骨折し重傷。	1	4		4	長野 防災
4	3月5日	四ツ岳	〃	3	有	69	男	会社員	神奈川県			1		滑落	山スキーのため3人パーティーで長野県側から入山、大黒岳を経由し四ツ岳を縦走中、1人が約100メートル滑落し、同行者から救助要請	2	27			警察
5	3月12日	ほおの木平 スキー場	〃	12	無	48	男	会社員	岐阜県			1		滑落	スポーツ少年団で、スキー場のコース外をスキーを外して散策中、子供1人が居ないことに気がつき付近を捜したところ、斜面の下に転落していたことから、引き上げようと下りて行き足を滑らせ約150メートル滑落、同行者から救助要請	1	12		14	警察
6	3月15日	西穂高岳	社会人山岳会	3	有	67	男	無職	東京都	1				滑落	3人パーティーで登山中、西尾根の標高2,700メートル付近で先頭を歩いていた1人が、右側斜面から回り込んで登ろうとしたところ、足元の雪が崩れるように滑落。雪崩と共に谷に巻き込まれたため、同行者から救助要請	2	25	1		警察
7	3月21日	槍ヶ岳	大学山岳部	3	有	20	男	大学生	千葉県			1		滑落	3人パーティーで槍ヶ岳へ向けて登山中、西鎌尾根の稜線上で岩にアイゼンを引っかけてバランスを崩し、約50メートル滑落。滑落時に腹部を強打し行動不能となり救助要請	1	13			警察
8	4月6日	槍ヶ岳	無所属	単	有	19	男	大学生	石川県			1		滑落	単独で中崎尾根経由で槍ヶ岳へ向けて登山中、稜線上で浮き石を踏み滑落、通りがかった別の登山者が発見し救助要請	1	9			警察
9	4月30日	奥穂高岳	〃	単	不明	41	男	会社員	神奈川県			1		滑落	穂高岳山荘で常駐中の警備隊員が「人が落ちた」という叫び声を聞きつけ、穂高岳山荘の南側付近で倒れている遭難者を発見。意識不明のため原因は不明なるも、ハンゴ場上部からならぬ原因で約100メートル滑落	1	13	7		警察
			〃	2	有	51	男	会社員	東京都			1		落石	上記遭難者が滑落する際に接触し、岩壁に体を寄せた際に落石が発生し頭部を負傷、救助要請					
10	〃	ジャンダルム	社会人山岳会	3	有	38 28	男 男	会社員 会社員	東京都 東京都			2		疲労	4人パーティーがジャンダルム付近でビバーク中の所へ、飛騨尾根から登ってきた3人パーティーのうち1人が滑落したと救助要請。2人は聴覚障害のため、ビバーク中の山岳会のリーダーが110番通報。翌日2人を救助し、1人を捜索していた所、長野県側に滑落している遭難者を発見。	2	26			警察
11	〃	〃	〃	9	有	51 26 33 27 31 54 53 56 53	男 男 女 女 男 男 男 女 男	会社員 会社員 会社員 会社員 会社員 会社員 無職 無職 看護師	神奈川県 神奈川県 神奈川県 神奈川県 神奈川県 神奈川県 神奈川県 神奈川県 神奈川県			9		悪天候	4月29日に2隊に分かれ入山、A隊はジャンダルム付近まで来たところで幕営中、別の遭難したパーティーに救助を求められ、テントやシュラフを持っていなかったことからそのままテントに向かい入れ共にビバーク、しかし折からの悪天候で行動不能に陥り、B隊はロバの耳付近で雪洞を掘るなどしてビバークしていたが食料等がつきリーダーが併せて救助要請	2	26			警察
12	5月6日	奥穂高岳	〃	2	有	75	男	無職	広島県			1		発病 (前立腺肥大)	穂高岳山荘に宿泊中の2人パーティーの1人が、持病の前立腺肥大を発症し、常駐中の警備隊員に救助要請	1	17			警察
13	5月9日	〃	無所属	単	無	46	男	自営業	愛知県			1		滑落	別の登山者が「間違い尾根で滑落するのを目撃した」と110番通報。遭難者は奥穂高岳からの下山中に雪庇を踏み抜き、約150メートル滑落。	1	9	4		警察
14	7月16日	〃	〃	単	有	29	男	会社員	三重県			1		道迷い	単独で穂高岳山荘から白出沢を下山中、道に迷い自ら穂高岳山荘に救助要請。常駐中の警備隊員が発見し救助。	1	4			

15	7月17日	〃	〃	単	有	71	男	パート	神奈川県			1	転倒	単独で穂高岳山荘から白出沢を下山中、ガレ場で足の踏み場を誤り前のめりに転倒し顔面を強打。その後、自力で下山したが午後7時になり、顔面も腫れ痛みも酷くなったことからピバーク。翌日歩き始めたが、顔面の痛みで休んでいたところ、別の登山者が付き添いながら下山し、穂高平まで来たところで救助要請	1	1			
16	7月22日	笠ヶ岳	〃	単	有	53	男	会社員	東京都			1	転倒	単独で笠ヶ岳からクリヤルートで下山中、クリアの頭付近においてバランスを崩して左足首を捻挫。自力下山をしていたが、痛みが激しくなったため救助要請。左足首骨折	1	10			警察
17	〃	奥穂高岳	〃	3	有	50	男	会社員	韓国			1	その他	韓国人3人パーティーで槍ヶ岳から穂高岳山荘に向けて縦走中、北穂高岳付近で1人が「ゆっくり歩きたい」と申し出たため2名が先行したが、到着予定時間を過ぎても1人が来ないことから救助要請	1	3	3		
18	7月25日	槍ヶ岳	〃	3	有	31	女	自営業	長野県			1	転倒	外国人2人含む3人パーティーで槍ヶ岳から千丈乗越経由で下山中、乗越と分岐の間で草地で足を取られ転倒し、左足首を負傷。滝谷合出まで自力下山し、下山中の別の登山者に依頼し救助要請	1	1	1		
19	7月26日	西穂高岳	〃	3	有	76	男	無職	神奈川県			1	疲労	3人パーティーで西穂山荘から下山中、1人が体力不足で下山速度が落ち始め、山頂駅手前で動けなくなったため、同行者が救助要請。	1	1	1		
20	7月25日	抜戸岳	〃	2	有	68	男	無職	奈良県			1	転倒	夫婦で双六小屋からの下山中、小池新道入り口付近でつまづいて転倒し顔面を負傷、わさび平小屋まで自力下山したが、顔面の負傷と疲労により歩行不能となり救助要請	1	1	1		
21	7月29日	奥穂高岳	〃	単	無	81	男	無職	千葉県	1			転落	奥穂高岳登山中の3人パーティーが、穂高岳山荘のハンゴ場上部から人が転落したのを目撃し、穂高岳山荘へ通報	1	11	5		警察
22	7月31日	笠ヶ岳	〃	2	有	47	男	会社員	富山県			1	転倒	2人パーティーで笠新道を下山中に、つまづいて転倒し右足首を骨折、本人から救助要請	1	7			警察
23	8月4日	弓折岳	高校山岳部	20	有	16	男	学生	大阪府			1	疲労	高校山岳部20人パーティーで上高地から入山し、槍ヶ岳を経由して鏡平山荘に宿泊中、夜中に生徒の1人が胸と呼吸が苦しくなったため、山小屋を通じて救助要請	1	9	1		警察
24	〃	抜戸岳	無所属	5	有	66	男	無職	東京都			1	転倒	5人パーティーで双六小屋から下山中、小池新道で濡れていた石を踏んで足を滑らせ転倒し、岩で頭部を強打し挫創。わさび平小屋まで自力下山したところで救助要請	1	1	1		
25	8月4日	南岳	〃	単	無	73	男	無職	千葉県			1	疲労	単独で南岳を目指し入山したが、槍平小屋より上部で気分が悪くなり自力で槍平小屋へ避難。二晩過ごし体調の回復を待ったものの回復しないため、小屋を通じて救助要請	1	9			警察
26	8月6日	奥穂高岳	社会人山岳会	8	有	68	女	無職	兵庫県			1	転倒	奥穂高岳山頂で写真を撮ろうと、カメラを構えて前に出た際に前のめりになり転倒、胸部等を岩で強打、痛みで小屋まで下山することが出来ず、穂高岳山荘へ救助要請	1	11			警察
27	8月7日	槍ヶ岳	高校山岳部	24	有	15	男	学生	静岡県			1	転倒	高校山岳部24人で上高地から入山、黒部五郎岳へ向けて縦走中、1人が千丈乗越付近で浮き石を踏んで転倒し、頭部を裂傷。双六小屋診療所にて治療を受けたが、医師から登山の継続を止められたことから救助要請。	1	10			警察
28	8月8日	北穂高岳	社会人山岳会	3	有	50	男	会社員	兵庫県			1	滑落	10人パーティーのうち、3人が北穂高小屋から滝谷を降りてクライミングをしていたところ、先頭の1人が掴んだ岩が剥がれ約10メートル滑落し、岩場で全身を強打。現場は電波が通じないことから、アマチュア無線で連絡をとり、電波の通じる所で救助要請。現場付近が直接ピックアップ出来ないため、仲間にピックアップ可能ポイントまで搬送を依頼、しかし、同日は天候が悪かったため遭難者と同行者がピバークし、翌日へりにより救助	1	25	1	9	警察
29	8月11日	西穂高岳	無所属	2	有	63	女	会社員	神奈川県			1	滑落	2人パーティーで奥穂高岳へ向けて縦走中、西穂高岳山頂付近で岩に足を引っかけてつまづき、約2～3メートル滑落、左手首を骨折して救助要請	1	13	2		警察
30	8月11日	笠ヶ岳	〃	2	有	48	女	会社員	岐阜県			1	発病 (日・熱射病)	2人パーティで笠ヶ岳山荘で宿泊中の1人が「立ちくらみと嘔吐で体調が悪い」と申し出て、山小屋を通じて救助要請。	1	10			警察
31	8月12日	弓折岳	〃	2	有	59	男	会社員	東京都			1	発病 (日・熱射病)	鏡平山荘で宿泊中の1人が高熱が出て衰弱が激しくなり、山小屋を通じて救助要請	1	10			警察
32	8月14日	奥穂高岳	〃	単	有	49	男	会社員	栃木県	1			滑落	ジャンダルムから奥穂高岳に向けて登山中の別の登山者が、後ろで「ガラガラッ」と岩が落ちる音がしたため振り返ると、人とザックが落ちていくのが見え、上部から声をかけたが返事が無く、その場から110番通報	1	16	5		警察

33	8月18日	抜戸岳	〃	2	有	67	男	大学教授	神奈川県			1	疲労	夫婦2人パーティーで笠新道を下山中、疲労のため行動不能となり登山道上で座り込んでいたところ、通りがかりの登山者に声をかけられ一緒に下山することにしたが、疲労が激しく自力下山不能と判断し、山小屋を通じて救助要請	1	11			警察
34	8月19日	双六小屋	大学サークル	43	有	20	男	大学生	東京都			1	発病 (尿道結石)	登山サークル43名で折立から入山、双六小屋に宿泊中、左脇腹の激しい痛みがあったため診療所にて医師が診断したところ、結石の疑いがあると診断され救助要請	1	9			警察
35	8月21日	奥穂高岳	無所属	3	有	20 19 77	男 男 男	大学生 大学生 無職	愛知県 愛知県 愛知県			3	道迷い	祖父と孫の3人パーティーで槍ヶ岳を目指したが、標高2,600メートル付近で、体力不足と天候不順から戻ることとなり、白出沢付近で道に迷って救助要請	1	2			
36	8月25日	双六小屋	〃	2	有	40	男	会社員	神奈川県			1	発病 (高山病)	2人パーティーで登山中、双六小屋で嘔吐やしびれがあったことから診療所に受診、高山病の疑いがあったため救助要請	1	10	1		警察
37	〃	双六岳	〃	3	有	74	男	無職	群馬県			1	発病 (脳梗塞)	3人パーティーで登山中、双六岳から三俣蓮華岳の中道分岐付近で、1人が突然右半身が麻痺して行動不能となり、山小屋を通じて救助要請	1	9	1	7	警察
38	8月26日	北穂高岳	〃	2	有	75	男	無職	福井県			1	滑落	2人パーティーで槍ヶ岳から北穂高岳へ向けて縦走中、飛騨泣き付近で浮き石を踏み外し約100メートル滑落、同行者が救助要請	1	10			警察
39	〃	弓折岳	〃	2	有	76	男	無職	新潟県	1			発病	妻と2人パーティーで入山、初日から夫の調子が悪いため鏡平小屋で引き返し、小池新道を下山中にふらついて倒れ、そのまま意識不明となったため妻から救助要請	1	10	7		
40	8月27日	南岳	〃	2	有	45	男	会社員	京都府			1	転倒	2人パーティーで槍ヶ岳からの下山中、槍平小屋から少し下った地点で濡れた岩でスリップして転倒し、右足首を骨折し同行者が救助要請。	1	8	7		
41	9月5日	奥穂高岳	〃	単	無	79	男	無職	東京都			1	転倒	単独で奥穂高岳から下山中、穂高岳山荘脇のハンゴ場を下った所で濡れた石で足を滑らせ転倒し、頭部を負傷。穂高岳山荘にて応急処置を受けたが、翌朝になっても出血が止まらず、血圧も低くなってきたため救助要請	1	15	5		警察
42	9月9日	槍ヶ岳	〃	2	有	43 48	女 男	会社員 会社役員	岐阜県 岐阜県			2	疲労 高山病	2人パーティーで登山中、1人が体調が悪くなり始め震えだしたため救助要請。通報者の同行者は、警備隊員と下山していたものの、股関節の痛みが激しくなったため救助	1	9			警察
43	9月10日	奥丸山	〃	単	有	66	男	会社員	岐阜県			1	転倒	奥丸山から槍平小屋に向けて下山中、小屋まで15分くらいの地点で足を滑らせ転倒し右足を骨折。登山道を通りがかった別の登山者に通報を依頼し、槍平小屋を通じて救助要請	1	10	2		警察
44	9月12日	双六岳	ツアー登山	15	有	73	女	無職	福岡県			1	発病	ツアー登山中、双六小屋で朝食後に意識がもうろうとし真っ直ぐに歩けなくなったことから救助要請	1	9			警察
45	9月17日	北穂高岳	〃	13	有	63	男	無職	高知県	1			滑落	ツアー登山で、北穂高岳から洞沢岳に向けて縦走中、同行ガイドが仰向けになって滑落していく遭難者を目撃。付近は霧で視界が悪く、遭難者が滑落して見えなくなったことから救助要請	4	59	7		警察
46	9月24日	西穂高岳	無所属	3	有	55	男	会社員	北海道			1	滑落	3人パーティーで西穂高岳から下山中、独標から丸山間の稜線上でバランスを崩して1人が約25メートル滑落。頭部、背中、足を負傷し自力歩行が困難となり救助要請	1	5	14		
47	9月25日	南岳	〃	単	無	45	男	会社員	石川県			1	転倒	単独で槍ヶ岳から下山中、チビ谷付近で濡れた岩でスリップして転倒し、右足の脛を骨折。通りがかった別の登山者に救助を依頼し、別の登山者が電波を通じる所まで来て救助要請	1	7			警察
48	10月24日	西穂高岳	〃	単	有	31	女	接骨院経営	東京都			1	滑落	単独で西穂高岳から下山中、独標直下のコル付近でバランスを崩し転がるように滑落し、右腕を骨折。自力で西穂山荘まで下山し、救助要請	1	9			警察
49	10月26日	奥穂高岳	〃	2	有	32	女	無職	山梨県			1	転落	2人パーティーで奥穂高岳から下山中、ハンゴ場下の登山道上で足を滑らせ岩場へ転落し、両膝等を打ち付け負傷。小屋に泊まり、翌朝になって痛みが酷く階段の上り下りが出来ないことから、山荘を通じて救助要請	1	10	5		警察
50	12月25日	西穂高岳	社会人山岳会	3	有	51	女	団体職員	愛知県			1	滑落	3人パーティーで西穂高岳から下山中、1人がスリップして約400メートル滑落。同行者が現場へ降り、遭難者と共に稜線まで這い上がり救助要請	1	10			警察
51	12月31日	槍ヶ岳	〃	6	有	31 72	女 男	理学療法士 会社員	大阪府 大阪府			2	滑落	6人パーティーで槍ヶ岳へ向けて縦走中、大喰岳付近の稜線で急斜面をトラバースする際に雪面が氷のようになっており、1人が足を滑らせ滑落、助けに入った1人も滑落したことから、他の2人が助けに向かいさらに1人が滑落して腰部を強打し救助要請	1	11			警察
遭難事故発生件数 51件 / 遭難者数 66人										6	0	29	31		60	595	82	34	

# 平成28年 山岳遭難事故発生分布図

別表2





## 編 集 後 記

昨年は、岐阜県警察山岳警備隊が、永年わたる山岳遭難者救助活動並びに遭難事故防止活動の業績に対し、警察組織の最高賞である「警察庁長官表彰」を頂きました。

また、北飛山岳救助隊は「多発する山岳遭難事故に長年対応し、遭難者救助活動や故防止活動がほかの人の励みになる心を打つ活動」として、東海地区の経営者で組織される「東海・経営と心の会」から「東海・こころの賞」を頂きました。

表彰式当日、深く考えず楽な気持ちで会場に向かいましたが、会場には「東海経営と心の会」の会員約250人の他、安倍総理夫人、愛知県の大村知事までいらっしゃいました。

「東海経営と心の会」の方々是有名な企業の経営者も多く、名刺を頂いて恐縮するばかりの蒼々たる顔ぶれでした。

安倍総理夫人とは短い時間でしたがお話しをする時間もあり、山岳遭難事故の現状を尋ねられ、私達の活動に目を留めて頂き、あの会場にいた全ての人に「北飛山岳救助隊」の名前と活動を知ってもらうことができたことは、とてもよい機会でした。

同じ年に、警備隊と共に大きな賞を頂くことができたので、今後もこれを励みにして地道に活動を続けて行きたいと思います。

## 山 岳 白 書

発 行 平成29年3月

発 行 者 國 島 芳 明

編集責任者 中 島 美 奈 子

発 行 所 岐阜県北アルプス山岳遭難対策協議会

URL <http://www.kitaalpsgifu.jp/>

Mail [info@kitaalpsgifu.jp](mailto:info@kitaalpsgifu.jp)

印 刷 所 高山印刷株式会社

